化学物質等安全データシート(MSDS)

1. 化学物質等及び会社情報

製品名	:Truepress ink(UV硬化型インク) HardLED Magenta
MSDS整理番号	:MS-MP-2009-006
会社名	:大日本スクリーン製造株式会社
住所	:〒613-0034 京都府久世郡久御山町佐山新開地304-1
担当部門	:メディアアンドプレシジョンテクノロジーカンパニー 商品開発統轄部 システムコーディネーション課
電話番号	:0774-46-7949
FAX番号	:0774-46-7999
推奨用途及び使用上の制限	:UV硬化型インク、インクジェットプリンター用

2. 危険有害性の要約

〔GHS分類〕

物理化学的危険性

引火性液体	:区分外

健康に対する有害性

急性毒性(経口)	:区分5
急性毒性(経皮)	:区分5
皮膚腐食性/刺激性	:区分2
眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性	:区分2A
皮膚感作性	:区分1
生殖毒性	:区分2

環境に対する有害性

水生環境有害性(急性)	:区分1

上記で記載が無いものは、分類できない、分類対象外

〔GHSラベル要素〕

絵表示

注意喚起語

警告

危険有害性情報

H303 飲み込むと有害のおそれ
H313 皮膚に接触すると有害のおそれ
H315 皮膚刺激
H317 アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ
H319 強い眼刺激
H361 生殖能または胎児への悪影響のおそれの疑い
H400 水生生物に非常に強い毒性

化学物質等安全データシート(MSDS)

注意書
[安全対策]
P201 使用前に取扱説明書を入手すること。
P202 全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。
P261 ガス、ミストの吸入を避けること。
P264 取扱後は手、眼をよく洗うこと。
P272 汚染された作業衣は作業場から出さないこと。
P273 環境への放出を避けること。
P280 保護手袋、保護眼鏡、保護面を着用すること。
P281 指定された個人用保護具を使用すること。
[応急措置]
P312 気分が悪い時は、医師に連絡すること。
P321 特別な処置が必要である。(MSDS 4.応急措置要参照)
P362 汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯をすること。
P391 漏出物を回収すること。
P302+P352 皮膚についた場合:多量の水と石鹸で洗うこと。
P305+P351+P338 眼に入った場合:水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
P308+P313 暴露または暴露の懸念がある場合:医師の診断、手当てを受けること。
P332+P313 皮膚刺激が生じた場合、医師の診断、手当てを受けること。
P337+P313 眼の刺激が続く場合:医師の診断、手当てを受けること。
[廃棄]
P501 内容、容器を都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託し廃棄すること。

〔その他の危険有害性〕
・高温になると引火、燃焼する恐れがある。
・飲み込むと有害のおそれがある。
・皮膚に接触すると有害のおそれがある。
・皮膚刺激。
・重篤な眼への刺激。
・アレルギー性皮膚反応を引き起こすおおそれがある。
・生殖能または胎児への悪影響のおそれの疑いがある。
・水生生物に非常に強い毒性がある。

化学物質等安全データシート(MSDS)

3. 組成、成分情報

単一物質・混合物の区分　　:混合物
成分及び含有量

成分名	含有量〔%〕	官報整理番号	CAS No.	備考
アクリル酸エステル	40-60	非公開	非公開	
二アクリル酸ヘキサメチレン	30-35	(2)-958	13048-33-4	
開始剤	10-15	非公開	非公開	
キナクリドンマゼンタ	0.1-5	非開示	非公開	
添加剤	0.1-5	非開示	非公開	

化学物質排出把握管理促進法(PRTR制度)
第一種指定化学物質:二アクリル酸ヘキサメチレン　30～35%

4. 応急措置

吸入した場合
・気分が悪くなった場合には、空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。気分が悪い時には、医師に連絡すること。

皮膚に付着した場合
・付着物を布にて素早く拭き取る。
・大量の水および石鹸または皮膚用の洗剤を使用して充分に洗い落とす。溶剤、シンナーは使用しないこと。
・外観に変化が見られたり、刺激・痛みがある場合、気分が悪い時には医師の診断を受けること。
・汚染された衣類をとりのぞくこと。
・アクリレートは蒸発せず、肌や衣類に長時間残るため、そのまま曝しておくと皮膚の炎症を引き起こすおそれがある。

目に入った場合
・直ちに大量の清浄な流水で15分以上洗う。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。
・まぶたの裏まで完全に洗うこと。
・直ちに医師に連絡すること。

飲み込んだ場合
・誤って飲み込んだ場合には、安静にして直ちに医師の診断を受けること。
・嘔吐物は飲み込ませないこと。
・医師の指示による以外は無理に吐かせないこと。

応急措置をする者の保護
・適切な保護具(保護メガネ、防護マスク、手袋等)を着用する。
・換気を行う。

化学物質等安全データシート(MSDS)

5.　火災時の措置

消化剤
・炭酸ガス、泡、粉末、強化液、設備的に可能であれば水噴霧も可。
使ってはならない消化剤
・水(棒状水、高圧水)
特有の消火方法、消火を行う者の保護
・適切な保護具(耐熱性着衣等)を着用する。
・可燃性のものを周囲から取り除く。
・指定の消化剤を使用すること。
・高温にさらされる密封容器や周囲の設備などに散水して冷却する。
・消火活動は風上より行う。
・燃焼生成物を吸引しないようにすること。

6.　漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置
・作業の際には適切な保護具(手袋、保護マスク、保護衣、ゴーグル等)を着用する。
・周辺を立ち入り禁止にして、関係者以外を近づけないようにして二次災害を防止する。
・付近の着火源・高温体及び付近の可燃物を素早く取り除く。
・着火した場合に備えて、適切な消火器を準備する。
・必要に応じた換気を確保する。
環境に対する注意事項
・河川への排出等により、環境への影響を起さないように注意する。
・万一、河川公共水路等に流れ込んだ場合は、直ちに地方自治体の公害担当者に報告する。
封じ込め及び浄化の方法・機材
・漏出物は、密封できる容器に回収し、安全な場所に移す。
・付着物、廃棄物等は、関係法規に基づいて処置すること。
・衝撃、静電気にて火花が発生しないような材質の用具を用いて回収する。
・乾燥砂、土、その他の不燃性のものに吸収させて回収する。大量の流出には盛土で囲って流出を防止する。

7.　取扱い及び保管上の注意

取扱い
・換気の良い場所で取り扱う。
・周辺で火気、スパーク、高温物の使用を禁止する。
・作業中は、帯電防止型の作業服、靴を使用する。
・工具は火花防止型のものを使用する。
・皮膚、粘膜、または着衣に触れたり、目に入ったりしないよう保護具を着用する。
・取扱い後は手、顔は良く洗い、休憩所等に手袋等の汚染保護具を持ち込まない。
・過去に、アレルギー症状を経験している人は取り扱わないこと。
・温度が高くなると引火性があるので注意する。
・密閉された場所における作業には、充分な局所排気装置を付け、適切な保護具を着けて作業すること。
・使用時には飲食しない。
・取扱い後は手洗い、洗顔を十分に行う。

化学物質等安全データシート（MSDS）

保管
・日光の直射を避ける。
・通風の良いところに保管する。
・火気、熱源から遠ざけて保管する。
・2000L 以上保管する場合は、消防法の規準に基づき危険物倉庫に保管すること。
・凍らせない。
・酸化性物質、有機化酸化物等と同一の場所に置かない。
・重合性があるので保存は冷暗所で行い、重合開始剤となる化合物（過酸化物、アゾ化合物、金属イオン等）の混入は絶対に避ける。

8.　暴露防止及び保護措置

〔管理濃度、許容濃度〕
・情報なし
〔設備対策〕
・腐食性物質に、作業者が直接触れたり、暴露したりしないような配慮をすること。
・屋内作業の場合、作業者が直接暴露されない設備とするか、全体換気装置または、局所排気装置等により作業者がばく露から避けられるような設備にすること。
・取扱い場所の近くには、高温、発火源となるものが置かれないような設備とすること。

〔保護具〕
呼吸器の保護具
・有害性物質に対して適切な保護のできる保護マスクを着用する。
・多量に使用する場合や密閉空間で使用する場合には、送気式もしくは自給式呼吸器を推奨する。
手の保護具
・有機溶剤又は化学薬品が浸透しない材質の手袋を着用すること。
目の保護具
・取り扱いには保護メガネや保護面を着用すること。
皮膚及び身体の保護
・取り扱う場合には、皮膚を直接曝露されないような衣類を着けること。また、化学薬品が浸透しない材質であることが望ましい。
・アクリレートは蒸発せず、肌や衣類に長時間残るため、そのまま曝しておくと皮膚の炎症を引き起こすおそれがある。

9.　物理的及び化学的性質

性状（状態、色）	：マゼンタ色液体(25℃)
臭い	：特異臭
粘度	：22±3mPa・s（25℃）
引火点	：133℃
比重（密度）	：1.09（25℃）

化学物質等安全データシート(MSDS)

10. 安定性及び反応性

安定性(危険有害反応可能性)
・通常の取扱いにおいては安定。
・光、特に紫外線が当たると重合硬化することがある。
避けるべき条件
・引火性の為、裸火、アーク等の着火源を避ける。
・光、紫外線、過酸化物の混入。
混触危険物質
・強酸化剤、ラジカル開始剤、不活性ガス、脱酸素剤。
危険有害な分解生成物
・燃焼した場合、中毒性のガス、一酸化炭素等の有害ガスを発生するおそれがある。
その他の危険性情報
・プラスチックやゴム類を溶かすおそれがある。

11. 有害性情報

〔急性毒性〕
経口 ラット LD50 >2000mg/kg 区分5
経皮 ラビット LD50 >2000mg/kg 区分5
〔発がん性〕
情報なし
〔その他の有害性情報〕
情報なし

12. 環境影響情報

一般注意事項
漏洩、廃棄等の際には、環境に影響を与える恐れがあるので、取り扱いに注意する。
特に、製品や洗浄水が、地面、川や排水溝に直接流れないように対処すること。
生態毒性
急性水生毒性 L(E)C50 <1.00mg/L 区分1
残留性・分解性
・混合物としてのデータがない
生態蓄積性
・混合物としてのデータがない
土壌中の移動性
・混合物としてのデータがない

化学物質等安全データシート(MSDS)

13. 廃棄上の注意

残余廃棄物
- 廃インク、容器等の廃棄物は、許可を受けた産業廃棄物処理業者と委託契約をして処理をする。
- 容器、機器装置を洗浄した排水等は、地面や排水溝へそのまま流さないこと。
- 排水処理、焼却等により発生した廃棄物についても、廃棄物の処理及び清掃に関する法律及び関係する法規に従って処理を行うか、委託すること。

汚染容器及び包装
- 空容器は内容物を完全に除去してから処分する。
- 許可を受けた産業廃棄物処理業者と委託契約して処理をする。

14. 輸送上の注意

取り扱い及び保管上の注意の項の記載に従うこと。
容器に漏れのないことを確かめ、転倒、落下、損傷がないように積み込み、荷崩れ防止を確実に行うこと。

国連番号 (UN No.)	:3082
国連輸送名 (Proper Shipping Name)	:環境有害性物質(液体)、n.o.s
クラス (Class)	:9 その他の危険物質及び物品
容器等級 (Packing Group)	:Ⅲ

〔国内規制〕

陸上規制情報	:消防法、労働安全衛生法、道路交通法に定められる運送方法に従うこと。
海上規制情報	:船舶安全法に定めるところに従うこと。
航空規制情報	:航空法の定めるところに従うこと。

〔国際規制〕

海上規制情報	:IMDGの規定に従うこと。
航空規制情報	:ICAO/IATAの規定に従うこと。

15. 適用法令

消防法	:危険物 第四類 第三石油類(非水溶性)
労働安全衛生法	:非該当
化学物質排出把握管理促進法	:第一種指定化学物質 二アクリル酸ヘキサメチレン

化学物質等安全データシート(MSDS)

16. その他の情報

参考文献
　国際化学物質安全性カード(ICSC)日本語版
　化学物質情報･･･中央労働災害防止協会

本データシートは、作成時または改定時において、製品及びその組成に関する最新の情報(危険有害性情報･取扱情報)を集めて作成しておりますが、全ての情報を網羅したものではなく、新たな情報を入手した場合には追加･修正を行い改訂致します。
また、本データシートに記載のデータは、その製品を代表する値であり、保証値ではありません。
本製品を当社が認めた材料以外のものと混合、当社が認めた使用以外の特殊な条件で使用する場合には、使用者において安全性の確認を行って下さい。